



コーディネーター
川口 麻衣子氏
松田まり子氏

2020年全建築物省エネ義務化に伴う沖縄への影響と今後の住まいづくり

沖縄独自の省エネ基準策定を

2020年の建築物省エネ法の義務化を控え、どんな動きがあるのか？ 施主や業界への影響は？ 県内の現状や課題、今後の沖縄の住まいづくりについて、県土木建築部建築指導課の金城新吾氏、県建築士会副会長の金城傑氏、県建築家協会（JIA）沖縄支部の金城優氏に聞いた。コーディネーターはNPO慈善地域住まいの研究会の松田まり子氏。（徳正美）

沖縄に不利な高断熱

松田 建築物省エネ法の義務化の背景は？
金城新吾 2015年の塩釜効果力削減に向けた「パリ協定」でわが国は、2030年に13年比で26%の削減目標を掲げた。日本の全エネルギー消費量のうち3分の1を占めるのが建築物部門であり、今も著しく増加中だ。その抜本的な対策として、建築物省エネ法が16年4月から段階的に施行されている。4面参照。

住宅には冷房などの設備は、かつて一次エネルギー消費量と断熱や外断熱、床など外皮性能関連の基準があり、基準を下回ると

と求められている。5・6階断熱性を高めて冷房効率を良くし、エネルギー消費を少なくする考え方で、沖縄に多い大きな開口や鉄筋コンクリート（RC）造は熱が伝わりやすく不利。大断熱 一般的な住宅で冷房のエネルギー消費量を見ると、沖縄は5千ガロン、東京は20、北海道が60で、沖縄は北海道の12分の1、外皮基準には、そのあたりを反映してもらいたくない。松田 クラウドをいいたくないといった自然志向の施主は、住宅が造りださず、予想され取り組みが始まっているのか？

金城新吾 建築物省エネ法では、伝統的木造住宅など地域の気候・風土に応じた住宅で行政が認めるには、外皮基準は適用しないこととなっている。沖縄の現状はRC住宅も、沖縄の自然条件に適応、発達してきた伝統がある。県も沖縄独自の認定基準を検討している最中だ。

松田 全国的にはどうか？
金城優 JIAでも、国の基準値や計算方法を検証する地域が多い。暖房性能を重視する東日本は問題ないが、通風性能を

シミュレーションで基準値との差を実感



県建築士会副会長
調査研究委員会担当
金城傑氏



県土木建築部建築指導課班長
金城新吾氏

花ブロックや遮熱塗料も評価項目に加える方向

クリアする設計 どう行うか

松田 業界への影響は？
金城優 省エネ設計は項目が多く計算も細かい作業量が増える。その負担を施主に求めるを得ない点が理解されなければ設計事務所は厳しい。理解してもらって説明能力も求められる。大断熱 計算だけでなく、基礎値をクリアする設計に努力と時間がかかる。勉強が必要だ。

金城傑 省エネ設計は項目が多く計算も細かい作業量が増える。その負担を施主に求めるを得ない点が理解されなければ設計事務所は厳しい。理解してもらって説明能力も求められる。大断熱 計算だけでなく、基礎値をクリアする設計に努力と時間がかかる。勉強が必要だ。

ない。また設計者が省エネ性能を念頭に置き、プランや材を吟味しても、施工側が断熱材なら同じと簡単に考えるやない。求める省エネ性能の設備、建材のストックが確保しなければ、取り合いになる可能性がある。大断熱 省エネ基準をクリアするにはどのメーカーが有効かの検討も必要だ。計算を簡略化して仕様書ができる。金城新吾 行政からも省エネ計算の要約が出ている。また、現在国が提示している外皮基準はコンクリートの熱貫流率と軒や庇の効果が評価対象だ

建築3団体で連絡協議会 情報交換や勉強の場に



県建築士事務所協会技術委員
大城通氏

重視する西日本では、独自基準の必要性を訴える声が増している。
金城傑 建築士会全国大会の環地部会でも、熊本はじめ東京、京都、長野、愛知、埼玉が独自基準に向けた取り組みを発表。沖縄や高気圧断熱を始めるなど、危機感ももっている。
金城新吾 国も2020年までに全建築物の省エネ基準適合義務化の方針だが内容は未定。研究会を開いた。全国の建築士事務所へアンケートを取るなど実施把握を取り組んでおり、来年3月には中間報告が出る。このこと、県は国の動向を見ながら建築3団体や専門家の意見を聞き、認定基準の策定を進めたい。

松田 現在、国が提示する基準値がそのまま義務化された場合、施主への影響は？
金城傑 まずはコストの問題

ZEH対応に約200万円

松田 現在、国が提示する基準値がそのまま義務化された場合、施主への影響は？
金城傑 まずはコストの問題

松田 現在、国が提示する基準値がそのまま義務化された場合、施主への影響は？
金城傑 まずはコストの問題

RCは換気・調湿が必須 現場の経験伝えるべきだ

松田 建築物省エネ法は断熱環境は重視しているが湿度はさほど、心配なのは断熱だ。
金城優 断熱と調湿



日本建築家協会沖縄県支部
副支部長・環境ラボ委員
金城優氏

現場の経験伝えるべきだ
RCは換気・調湿が必須